

## ① 令和3・4年度 跡津川上流砂防堰堤工事における「工事車両の安全な運行」について

坂本土木株式会社

令和3・4年度 跡津川上流砂防堰堤工事

工期：令和4年 1月 15日 ～ 令和4年 9月 3日

現場代理人

さかもと ただし

監理技術者

○ 坂本忠司

【キーワード：第三者事故、創意工夫】



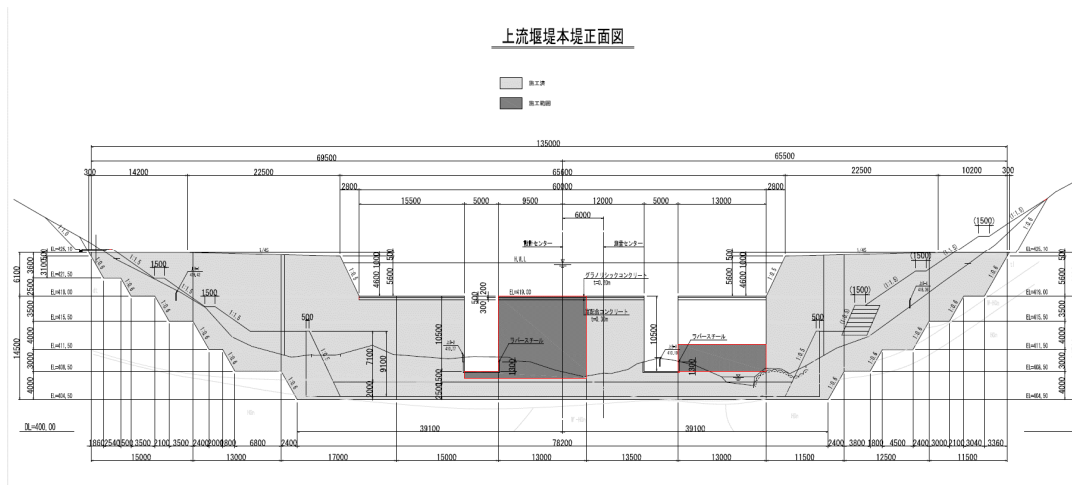
## 1.1 まえがき

本工事の施工箇所は飛騨市神岡町跡津川地先であり、現场上流は深層崩壊の発生の恐れのある溪流となっています。そのため、下流域に生活する人々や施設等を土砂災害から守る砂防堰堤を建設する工事でした。

今年度行ったコンクリート堰堤本体工の施工の中で実施した安全対策について報告します。

## 1.2 工事概要

堰堤本堤 正面図



主な工事内容

コンクリート堰堤本体工

コンクリート 1,681 m<sup>3</sup>残存化粧型枠 410 m<sup>2</sup>提冠保護工 97 m<sup>2</sup>

仮設工 1 式

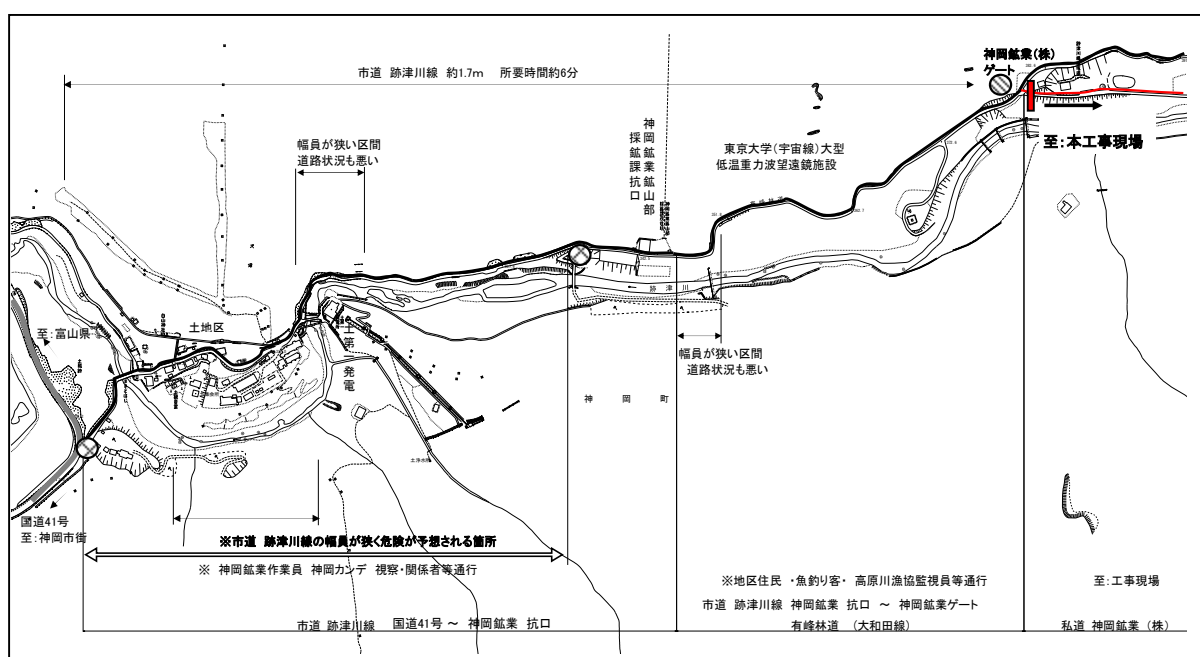
## 2 序論

### 工事車両の安全な運行について

本工事の施工箇所へは、冬から夏にかけ、国道41号から市道跡津川線（1.7km、6分）、神岡鉱山の私有地を含む工事用道路（1.3km、5分）を通り、以下の施設が隣接する中、工事用車両が通行する必要があった。

工事用車両としては管理者、作業員運搬車両：5台/日、資材運搬：1台/日、アジテーター車：27日450台などが通行した。

- ① 国道 41号  
+300m
- ② 跡津集落  
+100m
- ③ 県土木発注 橋梁工事  
+100m
- ④ 神岡鉱山 発電所  
+500m
- ⑤ 神岡鉱山 施設  
+400m
- ⑥ 東京大学、東北大学研究施設  
+400m
- ⑦ 市道から工事用道路へ入場ゲート  
+1200m
- ⑧ 急峻な工事用道路  
+300m
- ⑨ 施工箇所



### 3 本論

### 実施した取り組み

#### 3.1 看板設置

市道跡津川線、工事用道路は退避場が設けてある1車線道路で、線形、勾配も複雑で、また、通行する車両も地元の車両、鉱山・工事関係の工事用車両、外国人が運転することも多い東大、東北大の研究者用車両、魚釣りの車両と多岐にわたっており、それぞれに対応した、工事の情報と協力お願い及び注意喚起の看板が必要となった。

通行予定看板を設置



英語表記看板の設置



大型工事説明看板設置



#### 3.2 各機関との調整

市道跡津川線、工事用道路を通行し現場へ行く際、下記の施設があり工事を行うにあたり、調整が必要となった。

- ・ 神岡鉱業(株) 事務所、発電所、坑道入口等
- ・ 東京大学 宇宙線研究所
- ・ 東京大学 国際高等研究所
- ・ 東北大学 ニュートリノ科学研究所
- ・ 東北大学 ニュートリノ科学研究所
- ・ 岐阜県発注橋梁工事 安部日鋼工業
- ・ 岐阜県発注橋梁工事 加納工業株式会社

工事予定表		神岡1号長谷川橋梁事務所 建設中道路																							
工期 令和4年1月 16日～令和4年 5月 31日		事業者： 加納工業株式会社																							
工事名 令和3年度 跡津川上流砂防橋梁工事																									
工事	5月 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日 6月 1日 2日 3日 4日 5日 6日	16日 (土)	17日 (日)	18日 (月)	19日 (火)	20日 (水)	21日 (木)	22日 (金)	23日 (土)	24日 (日)	25日 (月)	26日 (火)	27日 (水)	28日 (木)	29日 (金)	30日 (土)	31日 (日)	1日 (月)	2日 (火)	3日 (水)	4日 (木)	5日 (金)	6日 (土)	安全作業曜日 (祝祭日・労働祭日等 は異なる日数)	
準備工																									
コンクリート基礎工事																									
橋脚																									
橋脚基礎工事																									
砂防設備工事																									
第二セーブ																									
分界工																									
出来高	令和4年5月26日 閉市	- 打設日 通行量増加日 - 5月1日 8:00 - 15:00 00重量 V=49.2m3 アジター=1 交通量増加 15台/時																							
	砂防 60.7%																								
	基礎 50.7%																								
備考																									
上流から												下流から													

毎週木曜に翌週の道路運航予定をメールにて周知調整し、通勤、資材搬入、大きな視察見学会とコンクリート打設日等が重ならないよう調整した

### 3.3 道路整備

市道跡津川線、工事用道路を冬期から長い間使用するため、仮設備維持作業を行い、安全な運行を心掛けた。

離合場所の設置整備



路肩の明示



凍結防止材の配備



維持修繕作業



維持修繕作業



凍結防止作業



## 4 結論

### 対策の効果

今回発表した「工事車両の安全な運行」に対する取り組みは、地域と各事業との関係が深く、心配していたクレームもなく、無事故で工事が終わることが出来、良かったと思います。

## 5 まとめ

この取り組みの過程で地域と各事業とのコミュニケーションを図ることで工事に対する理解が得られたのは大きな収穫でもありました。

最後になりましたが、工事をよりよい方向に導いてくださった神通川水系砂防事務所ならびに栃尾出張所の皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。